



令和7年6月20日

第一早蕨幼稚園

園長 生田 増美

突然に雨が降ったり、暑い日が続いたり…。自然の気まぐれも子どもたちはおかまいなし。その日その時の楽しみを見つけて過ごす姿は、関心するやら羨ましいやら…。「そこまでするか」とひやひやするほど泥にまみれて遊ぶ姿は、幼児期だからこそ遊びです。大人には捨てるだけの空き箱も、一生懸命考えてイメージして、ペたたペたとテープで張り合わせた空き箱たちは車になったりヒーローごっここの武器だったり、お店屋さんのツールだったりと、宝物作りの材料に変身します。子どもたちの楽しさを「楽しかったね、気持ちよかったね、またやろうね」と共感する幼稚園でありたいと思います。

7月は、水遊び、七夕会や年長児のお泊り保育、終業式など短い期間にたくさんの行事があります。健康に気をつけ楽しく参加できるようにご協力ください。



宝物のゆくえ

幼稚園で作った泥団子や広告を丸めた剣や制作物、草花や葉っぱ、ダンゴムシやバッタ等々、子どもたちは宝物をいっぱい持ち帰ります。「お母さん、見て見て！」と目を輝かせて見せてくれることでしょう。玄関先やリビングは子どもたちの宝物やお土産で溢れているのではないかでしょうか。

最近、年長児の間で泥団子作りが流行しました。私は、泥団子に苦い思い出があります。我が家のある時代、泥団子や広告の剣を毎日毎日家に持ち帰っていました。おかげで玄関まわりは泥団子やダンゴムシ、時には既に死骸になっている虫も溢っていました。泥団子は崩れて砂だらけになるし、作った剣は散乱するし…。その頃の私は、泥団子や剣に込めた子どもの思いに気付かずにいました。昨日より、少しだけ細い剣を作れるようになったこと、固い泥団子を作れたことがいかに嬉しいのか、誰よりも家族に認めてもらいたい気持ちさえ考えていなかったのです。運ばれてきた泥団子や剣を大切に扱うこともせず、時には、子どもの許可なく処分をしていました。今思うと、なんと無慈悲なことをしていたのだろうと後悔しきりです。今となっては取り返しがつかず、胸の奥深くがきゅんと疼くような後悔です。

幼稚園では、崩れかけの泥団子が靴箱や棚の上に置いてあります。制作物？と思うような物も、ロッカーに置いてあることもあります。所有者のわからない物は1週間ほどそっとその場所に置いておくようにしています。持ち主が分かれば「持つて帰ろうか」と声をかけることがあります、「おうちでは捨てられちゃうもん」とつぶやく子がいます。「そうだよな、仕方がないよな」と思う一方で、子どもの表情を見ると切ない気持ちになります。私の苦い記憶を活かすとしたら、子どもの思いと大人の事情、整理整頓と子どもの遊び、ご家庭やクラスでよく話し合ってルールを決め、お互いが納得できる方法を決めるしかないと思うのです。子どもが納得して整理をしたり処分をしたりすることが、子どもが宝物の行方を家族が見届けることが、物を大切にする気持ちにつながると思うのです。そうは言うものの、そこかしこに孫たちのおもちゃや宝物、作りかけの折り紙や空き箱制作たちで溢れかえる我が家(同居ではありません)をこっそり整理しながら、やはりため息がでる日々(笑)です。子どもの思い、大人の事情…なかなか難題です。でも、20年後の後悔は少なめにしたいですよね。



お願いします



年少、年中組で、まだ文字が読めないために、麦わら帽子や園帽子の取り間違えがあります。

自分の持ち物が分かりやすいように、ボタン等をつけていただくと良いと思います。サイズは、2cm×2cm以内にしてください。また、最近、カラー帽子にワッペンをついている子がありますが、カラー帽子は表面に大きく名前が書いてありますので、つけなくても結構です。どうしても印が必要なお子さんも2cm以内にしてください。

